

周辺の
みどころ

大溝まつりは高島市勝野の日吉神社の祭礼で、湖西随一の曳山祭りとして名高い。

5月3日が宵宮祭、4日が本祭、5日が後宴祭。この祭礼では湊、巴、宝、勇、龍の5基の曳山が町内を巡行する。曳山はそれぞれ豪華な天幕、胴幕、見送り幕で飾られ、勝野津を起点とした湖上交りにより、財をなした大溝の町衆の力を良く表している。滋賀県選択無形民俗文化財でもある。



大溝まつり

高島の古式水道 (日吉山山水水道・山岸水道)

高島市大溝・朽木市場



日吉山山水水道「立ち上がり」水槽



朽木市場の古式水道



大溝の古式水道

【アクセス】

- 大溝の古式水道 JR湖西線近江高島駅下車北へ5分
- 市場の古式水道 JR湖西線安曇川駅からバス支所前下車

【もっと詳しく知りたいひとへの案内】
(関連文献/関連施設)

- 朽木郷土資料館 Tel. 0740-38-2339
- 高島歴史民俗資料館 Tel. 0740-36-1553

「古式水道」とは、耳慣れない言葉である。水を確保するため、遠く離れた水源から竹筒をつなぎ、要所にサイフォンを利用した溜め枡を造り、家々に水を配分した水道のことである。その起源は江戸時代にさかのぼるといふ。

蛇口をひねればいくらでも水が出てくる今の時代にあつて、多くの労力を費やして、この古式水道の維持に努めている人々がいる。





日吉山山水水道「立ち上がり」

高島の古式水道(日吉山山水水道・山岸水道)

所在地 高島市勝野・朽木市場

日吉山 山水水道

高島市高島町の勝野地区にある古式水道である。勝野地区は、琵琶湖に近いにもかかわらず、地下水に鉄分が多く含まれ、井戸による浄水の確保が困難な場所であった。ここに浄水を供給するために整備されたのが、背後にそび通称日吉山の山の端から湧き出る水を引き入れた古式水道である。

湧き出た水は、3箇所ちんさその沈砂槽に次々と引かれ、ここで砂を沈澱ちんてんさせる。ここから集落までは、古くは竹の筒を継いだ管により引かれる(現在は塩化ビニールの管に変わっている)。集落の端で、高さ2m余りの台の上に水槽を乗せた「立ち上がり」と呼ばれる装置の上まで水を揚げる。取水地との高低差による水圧(サイフォン)を利用した装置である。水槽には水源からの水を受ける大水槽と、各組に水を配分する小水槽の2種類があり、4基の小水槽が設けられ、現在は3基が稼働している。小水槽から引

かれた水は、さらに住居近くの立ち上がりに配水し、ここで水圧をかけて、各家々に配分される。各家に配分される水量は管の数により厳格に決められ管理されている。自然の山水を引き込むため、上流の沈砂槽の掃除や、砂浚え等の管理を欠かすことができない。現在は、この水を浄水として用いることはなくなったが、一年中涸れることのないこの水は、野菜の泥落としや、庭の泉水、畑の水やりなどに重宝されている。

現在、勝野地区では、この山水の水道の他、地下水質の良いところに掘られた共同井戸(生水)から引水している水道系統もある。

高島市朽木市場の山岸水道

朽木市場は、朽木藩の陣屋が置かれたところで、通称鯖街道さばかいどうの宿場としても栄えた集落でもある。



山岸水道「たつどゆ」の水槽



山岸水道「たつどゆ」



山岸水道を引き入れた泉水

水道は、安曇川あづがわの河岸段丘面の途中から湧き出る水を斜面上の柵に溜め、ここから大溝地区のものと同様に、管を継いで引き込み「たつどゆ」と呼ばれるサイフォンにより、各家々に配水している。現在では、浄水として用いることはなくなったが、泉水や、冬期の消雪に使われている。水源の管理や維持補修には、この水道を利用する家々が共同して当たっている。

自然の水の恵み

自然の水をそのまま生活の中に取り入れる、高島の古式水道。直接飲むことはなくなったものの、掛け流しの山水は、今なお生活を潤している

ここに「水」とともにある人々の暮らしをみることができる。